

令和5(2023)年度事業報告
(令和5年4月1日～令和6年3月 31 日)

公益目的事業 1 (指定寄付に基づく社会福祉事業)

【海外難民救援事業】 180万円

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面との連動で1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始めた海外難民救援事業は、2023 年度で45 年目を迎えた。大阪社会部がパレスチナ難民を取材するべく検討したが、記者の安全面で課題が多く、準備は進めるものの、年度内のキャンペーン取材は見送った。それでも、紛争などのため、世界各地で多くの人たちが苦しんでいることを知った読者から浄財が寄せられた。西部社会事業団は、東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会、「ペシャワール会」「ロシナンテス」をはじめとするNGOなど19団体に総額1270万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は17億1988万8344円になった。

海外救援金の配分先と配分額は以下の通り。

【西部管内】

ペシャワール会	30 万円
ロシナンテス	30 万円
国連世界食糧計画 WFP 協会	70 万円
国境なき医師団日本	50 万円

【東京・大阪管内】

国連 UNHCR 協会	120 万円
国連世界食糧計画 WFP 協会	100 万円
日本ユニセフ協会	100 万円
国境なき医師団日本	200 万円
日本国際ボランティアセンター (JVC)	40 万円
難民を助ける会 (AAR Japan)	140 万円
シェア＝国際保健協力市民の会	40 万円
AMDA	30 万円
シャンティ国際ボランティア会	40 万円
ワールド・ビジョン・ジャパン	100 万円
難民支援協会	40 万円
緑のサヘル	30 万円
バーンロムサイジャパン	30 万円
パール震災プログラム実行委員会	20 万円
Piece of Syria	20 万円

CLOUDY	20 万円
Inna Project	20 万円

計 19 団体 1270 万円

【小児がん征圧募金】 150 万円

平成8(1996)年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる——小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。当年度は、東京、大阪と合わせ全国で34団体に1545万円を配分。第28次までの贈呈総額は4億2700万円となった。

小児がん征圧募金の配分団体と配分額は以下の通り。

【西部管内】

にこスマ九州	20 万円
九大病院小児医療センター親の会・すまいる	20 万円
九州がんセンター小児科親の会・大きな木	15 万円
久留米大病院小児科血液グループ親の会・木曜会	10 万円
北九州市立八幡病院家族会・あおぞら会	10 万円
産業医科大病院小児がん家族会・ひまわりキッズ	10 万円
コメディカル・クラウン	10 万円
たんぽぽハウス	20 万円
宮崎ひまわりキャンプ	15 万円
レモネードスタンド in ふくおか実行委員会	20 万円

【東京・大阪管内】

がんの子どもを守る会（含むスマートムンストン）	220 万円
難病のこども支援全国ネットワーク	110 万円
公益信託日本白血病研究基金	100 万円
ファミリーハウス	15 万円
スマイルオブキッズ	15 万円
メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	15 万円
そらふちキッズキャンプ	15 万円
小児脳腫瘍の会	15 万円
アジア・チャイルドケア・リーグ	15 万円
パンダハウスを育てる会	15 万円
ゴールドリボン・ネットワーク	15 万円
あいち骨髄バンクを支援する会	65 万円
ぷくぷくばるーん	65 万円
京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」	65 万円
京都ファミリーハウス	65 万円
近畿小児血液・がん研究会	65 万円
しぶたね	65 万円
守口ぶどうのいえ	65 万円
日本クリニックラウン協会	65 万円
こどものホスピスプロジェクト TSURUMI こどもホスピス	65 万円

チャイルド・ケモ・サポート基金	65 万円
名古屋小児がん基金	65 万円
三重大学病院小児科父母の会・ひだまり	65 万円
京都・がんと生殖医療ネットワーク	65 万円

合計 34 団体 1545 万円

【災害被災者救援事業】 1 4 7 0 万 9 0 7 1 円

今期は、2023年の終わりまで大きな自然災害もなく過ごしたが、24年の元旦、石川県能登地方を震源とする震度7の地震が発生、津波も押し寄せた。同県内を中心に、多くの家屋が倒壊したり、流されたりした。さらに、大規模火災も起き、同県内で200人を超す皆さんが犠牲になった。被災地では、道路が寸断され、水道も長い間、使えない状態が続いた。また、多くの皆さんが避難所で不安な日々を送った。当事業団は、地震発生直後から、東京・大阪の両事業団と共に救援金を呼びかけ、新聞やテレビで現地の惨状を知った皆さんから多くの浄財が寄せられた。この中から、当事業団は被害の大きかった石川県輪島市、珠洲市、七尾市に合わせて800万円を第1次分として贈った。

また、前年度発生したトルコ・シリア地震の救援金を現地で活動する2団体に配分。東日本大震災救援金と毎日希望奨学金にも、たくさんの方々から善意が寄せられた。東日本大震災救援金は、福島県に30万円▽希望奨学金は、事務を担当する大阪社会事業団へ400万円送金、ともに残金は次年度へ繰り越した。

西部社会事業団への救援金・奨学金は以下の機関・団体に配分、贈呈した。

【能登地震救援金】

輪島市	3 0 0 万円
珠洲市	3 0 0 万円
七尾市	2 0 0 万円

【トルコ・シリア地震救援金】

国連世界食糧計画 WFP 協会	1 0 0 万円
難民を助ける会	9 0 万円

【東日本大震災被災者救援金】

福島県災害対策本部へ	3 0 万円
------------	--------

【毎日希望奨学金】

大阪社会事業団へ	4 0 0 万円
----------	----------

【九州豪雨災害救援金】

熊本県人吉市へ	5 0 万 9 0 7 1 円
---------	-----------------

公益目的事業2（一般寄付に基づく社会福祉事業）

【児童福祉事業】 336万7375円（38.2%）

児童虐待や養育放棄などがやまず、子どもたちを取り巻く環境は相変わらず厳しい。社会のあすを担う大事な子どもたちを守り、育むため、今期は6事業を助成・援助した。

合同自立体験セミナー 筑豊京築地区児童福祉施設長会が、管内の児童養護施設に在籍する中・高生を対象に、職場体験などを通じて卒業後の社会人としての自覚を促すために実施している。コロナ禍前は二日に分けて実施していたが、前年は3年ぶりにオンラインで開催。当期は7月9日の一日に集約して識者の講演があった。開催に要した費用を助成した。 10万円

田川児童相談所管内児童福祉施設ボウリング大会 福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が7月29日と24年2月17日の2回に分け、福岡県飯塚市の麻生塾ボウルで開いた。新型コロナウイルス禍で20年から開催を見合わせていたが、子どもたちの希望もあり、4年ぶりに開催した。 4万円

田川児童相談所管内児童福祉施設「フレ愛レクリエーション大会」 福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が9月2日、田川市の福岡県立大体育館で、12施設の子どもたちや職員が参加して4年ぶりに開催。各種競技を楽しんだ。 5万円

「一円玉募金」による無料学習塾事業を支援 「NPO法人 和む」の吉本満廣・理事長が、市民から広く浄財を集め、給付型奨学金支給するため、15年秋から始めた「一円玉募金」。国が新しい給付型制度を導入したため奨学金給付は21年度で終了。その後、経済的に困っている家庭の中学生を対象にした「無料の食事付学習塾」を新たにスタートさせた。コロナ禍で中止していた募金は再開したが、厳しい運営が続いており、当事業団も引き続き助成した。 10万円

青少年の自立を支える福岡の会「自立援助ホーム」年間運営費助成 児童養護施設退所後の15～20歳の青少年の自立を支援するNPO団体。2008年7月に「かんらん舎」をオープンし、15年度には2か所目の「結ホーム」を開設、さらに19年度に「リープ」▽23年度に4か所目の「リープ」の運営を開始した。福岡市からの補助金や会員の会費、寄付金で運営しているが、資金不足のため厳しい状態が続いており、今期も「母の日・父の日募金」を財源に助成。「結ホーム」の老朽化した洗濯機の更新に充てた。 17万円

児童福祉施設への新入学・卒業記念祝い品プレゼント 恒例の本団主催事業。歳末助け合い募金「愛の義援金」を財源に、児童養護施設や障害児、肢体不

自由児、盲ろう児などの児童福祉施設の小学校入学と中・高校卒業予定者に、お祝いの記念品を贈っている。今年度も福岡・山口両県内の施設児童ら計66施設を対象に該当者の有無を調査。63施設に対象者402人がおり、新1年生にはランドセルかリュックサック、手提げセット、雨具セット、図書カード(4千円分)のいずれか▽中・高校卒業予定者には目覚まし時計か図書カード(5千円分)を選んでもらい、祝い品としてプレゼントした。290万7375円

【障害者福祉事業】

89万7838円 (10.2%)

助成・援助の事業件数としては最も多く、今期は新規1件、継続事業14件で計15件。うち名義後援のみは4件だった。

北九州精神障害者福祉会連合会バスハイク 同連合会は北九州市内で5事業所を運営しており、日ごろ遠出をする機会の少ない利用者や家族が交流を図る目的で実施している。コロナ禍で20年度から中止、前期は少人数で行い、今期は5月19日、約60人が太宰府天満宮などの散策を楽しんだ。申請は10万円だったが、前年度と同額を助成した。8万円

第48回「わたぼうし音楽祭」 「奈良たんぽぽの会」などが主催する障害のある人たちの「心を歌う音楽祭」で、毎日新聞社や同社会事業団などが後援。8月6日、奈良県の「やまと郡山城ホール」で、4年ぶりに対面開催した。全国から「作詩の部」に325作品、「作詩・作曲の部」に305作品が寄せられた中から最高賞の「わたぼうし大賞」には、滋賀県近江八幡市の奥田実里さん(18)が作詩・作曲した「僕らが諦めたのは、」が選ばれた。文部科学大臣賞は、神戸市の鈴木美緒さん作詩、作曲の「ちいさいわたしへ」が選ばれた。5万円

「声の点字毎日」発行 週刊「点字毎日」を録音テープに吹き込み、ハンセン病で視覚も皮膚感覚も失った人たちへ寄贈する事業で、月に2回発行する。東京、大阪との3事業団共同事業。2007年8月の配布分からデージー版CD「点字毎日音声版」に切り替えた。西部管内では菊池恵楓園(熊本)、星塚敬愛園、奄美和光園(ともに鹿児島県)の3カ所の国立ハンセン病療養所に贈った。5万円

第91回全国盲学校弁論大会 全国盲学校長会と毎日新聞社会事業団、点字毎日が主催して10月6日、秋田市の秋田県立視覚支援学校体育館で開催。全国7地区予選で選ばれた9人が出場。「無意識の壁」と題して発表した大阪府立大阪南視覚支援学校高等部普通科2年、酒井響希(17)さんが優勝した。10万円

第34回北九州市障害者水泳大会 市障害者スポーツ協会が市内の10歳以上の身体障害児者を対象に7月9日、小倉北区三郎丸の市障害者スポーツセンター「アレアス」屋内温水プールで開催した。市内各区から障害者が出場、日ごろの練習の成果を発揮した。5万円

九州地区聾学校体育・文化連盟大会 九州地区ろう学校の体育・文化の祭典

で、10月26～27日、福岡市の博多の森陸上競技場、スポーツ科学情報センターで開催。九州各県のろう学校の小学生～高校生が参加した。当事業団は、各競技の入賞者へのメダル(114個)や賞状(138枚)、レプリカ(3個)を贈った。

14万5438円

高次脳機能障害啓発研修会の助成 高次脳機能障がいとは、脳卒中や交通事故、低酸素脳症などによる脳損傷で引き起こされる。障害部位によって後遺症が様々なため、周囲の理解を得るのは難しいのが現状。同じ障害で困っている人が多くいるのに、北九州ではよく理解されておらず、啓発と支援の充実を目指して、6年前に考える会「虹」が発足。11月5日に北九州市戸畑生涯学習センターであった研修会では、専門家の講演会や当事者の体験談などがあり、約50人が参加した。

10万円

第42回北九州市障害者ボウリング大会 市障害者スポーツ協会が障害者スポーツ振興のため12月17日、八幡東区の北九州桃園シティボウルで開催。各地から13歳以上の選手28人、ボランティアら15人が参加。障害区分に分かれて1人2ゲームずつプレーし順位を競った。

5万円

第42回「^{たびだち}出発を励ます集い」 北九州市と市手をつなぐ育成会が市内の知的障害児者の中で、入学や卒業、成人、還暦など人生の節目を迎えた人たちを励ます催し。前期までコロナ禍で限定開催だったが、今期は4年ぶりに関係者が集う従来のスタイルに戻した。写真やコメントを載せたリーフレットを作り、当事業団は後援するとともに対象者35人に記念品の置時計を贈って励ました。

9万2400円

中間市手をつなぐ育成会クリスマス会 福岡県中間市の手をつなぐ育成会が市内の障害児らの交流と年末レクリエーション行事として毎年、もちつき大会を行ってきたが、コロナ禍で20年度から中止。関係団体とクリスマス会を合同開催しているが、経費捻出に苦慮しており、もちつき大会の予算を振り替えて助成した。

8万円

日本ふうせんバレーボール協会運営費助成 「障害者の完全参加と平等」を掲げ、北九州発祥の風船バレーボールの普及・振興を図る同協会の年間運営費を助成している。2012年度までは全国大会への助成という名目で助成金を支出してきたが、13年度から同協会から「年間運営費に変更してほしい」との要請があり、変更して支出。競技普及を通じ、障がいや性別、国籍で「分ける」のではなく「共に」暮らして行ける社会を目指しており、23年度も同様に助成した。

10万円

◇名義後援事業◇

第60回点字毎日文化賞 盲人文化の向上と福祉増進に先駆的業績をあげた個人、団体を表彰することで社会の理解を深めるのが目的。23年度は、世界盲人連合アジア太平洋地域協議会長を務め、日本の視覚障害者の一般就労拡大や

職場環境改善に貢献した指田忠司さん(千葉市)が選ばれた。

第 61 回北九州市障害者スポーツ大会 北九州市の障害者スポーツの祭典で、全国障害者スポーツ大会の選手選考も兼ねた大会。5月 14 日に小倉北区の障害者スポーツセンターで卓球競技▽5月 28 日、八幡西区の本城陸上競技場などで陸上競技やフライングディスク競技があった。

第42回肢体不自由児・者の美術展 全国規模の美術展で、24年2月26日～3月3日、福岡市役所 1 階市民ロビーと福岡県庁1階ロビーで開催。全国から応募のあった絵画、書、タイプアート、デジタル写真の中から、入賞作品を展示した。

第 34 回全国ふうせんバレーボール大会 コロナ禍で中止となっていたが、前年、規模を縮小して再開。当期は3月10日、北九州市立総合体育館で約500人が参加して開催、台湾のチームが初めて参加した。

【医療福祉事業】 1 8 0 万円 (20.4%)

医療ボランティア「福岡ファミリーハウス」へ助成 同グループは福岡市内に3施設・4部屋を確保、九大病院や九州がんセンターなどに入院する患児や家族に1家族1泊1000円という安価で宿舎を提供し、喜ばれている。当年度も募金額に左右されない医療福祉事業として社会福祉寄金から支出した。 30万円

コロナの医療従事者に支援金 新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが変更となった。しかし、感染が続いたため、当事業団は感染者の多い地域の看護協会へ合計 1 5 0 万円を配分した。医療崩壊を防ぐ目的で続けてきた募金は5月末で終了した。

福岡県看護協会へ	3 5 万円
鹿児島県看護協会へ	3 5 万円
沖縄県看護協会へ	8 0 万円

【高齢者福祉事業】 2 0 万円 (2.3%)

「80 歳からの合唱団北九州」運営費助成 「80 歳からの合唱団北九州」は、①歌うことで健康寿命を延ばす②歌うことで生きがいができる③歌うことで仲間をつくる④歌うことで社会に貢献する（地域のイベントに参加、福祉施設や病院等を慰問する）⑤合唱仲間で生きる楽しみをつくる――が目的。現在は 120 人が参加、月 1 回の練習には 100 人ほどの団員が参加している。年 1 回「ウェルとばた」でのコンサートを開き（新型コロナのため 2 0 ～ 2 1 年は中止）、各区でのクリスマスの催しにも出演して元気な歌声を響かせている。費用は団員の会費でまかなっているが、活動を充実させるため、遺贈寄付（高齢者福祉での利用を希望）から運営費を助成した。 20万円

【福祉団体助成事業】 148万750円 (16.8%)

今期は、前年度と同じ12団体に助成金を贈った。いずれも継続事業で、前年度並みの助成をした。

あしなが育英会へ助成 07年度から社会事業団で受け付けを始めた「母の日・父の日募金」から同育英会の運営資金として助成した。この募金は、母の日、父の日にちなみ「プレゼントをしたい親がもういない」「プレゼントをしたつもりで、そのお金を遺児たちへ」との趣旨で、05年から毎日新聞の紙面キャンペーンとしてスタート。当初はあしなが育英会を募金のあて先にしていましたが、親がいても恵まれない子どもたちが急増している現状から「遺児に限らず、恵まれない全ての子どもたちを対象を広げよう」と、07年度から毎日新聞社会事業団が窓口となった。今期も5～7月の3カ月間募集、西部へは28件58万1000円の寄付があった。これを原資に児童福祉事業の「かんらん舎」(17万円)と「あしなが育英会」に助成した。

28万750円

福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」へ助成金 自殺者の総数は12年度から3万人を下回るようになったが、自殺予防のための電話相談「いのちの電話」は、依然として重要な存在だ。しかし、どの団体も維持運営費は寄付金が頼りで、電話相談を受ける相談員は主婦を中心としたボランティアが24時間体制で当たっている。23年度も4団体に助成し、うち佐賀、大分両団体は通年事業で、福岡、北九州両団体は歳末募金「愛の義援金」を財源に助成した。

40万円

「福岡盲ろう者友の会」活動費助成 福岡県内の視覚、聴覚とも不自由な人たちの福祉向上と社会参加の促進のため03年4月に発足。盲ろう者は外出するにもボランティアの手助けが欠かせないが、会員の会費やカンパが頼りの運営で、当事業団は発足当初から継続して助成している。

15万円

ホームレス支援のNPO法人抱樸に助成金 長年、ホームレスの支援、自立活動に取り組んでいる抱樸では①ひとりの路上死も出さない②ひとりでも多くの人を路上から脱出させる③ホームレスを生まない社会を創造する——を掲げて活動している。特に②の活動では生活支援、住宅支援、各種保健プログラムなどを展開しながら、自立に向けた取り組みをしている。助成金は、炊き出し現場で配布する医薬品購入に充てている。

10万円

山口県共同募金会 歳末募金「愛の義援金」を財源に、同県共同募金会を通じ、障害のある子どもたちのために活用した。共同募金会は肢体不自由児協会に助成金全額を寄託し、肢体不自由児のための研修費用に充てた。

10万円

福岡県交通遺児を支える会 交通安全運動に積極的に参加するなど事故防止運動を展開する一方、交通事故遺族の実態調査や遺家族への盆・正月の見舞金や入学・卒業祝い金の贈呈、各種の生活相談を受けるなど、交通遺児の支援事業をしている。

15万円

九州盲導犬協会 九州及び沖縄・山口両県をエリアに視覚障害者の自立支援のため、多数の盲導犬を育成し、無償貸与している。現在43頭が実働しているが、なお20人の方が待機中で、絶対数が不足しているという。更なる訓練士の養成や繁殖犬の増加などが求められている。 10万円

北九州あゆみの会 北九州市内の障害者の自立支援のために、本人や家族の各種相談を受けている。会では3人の相談員を配置、状況や生活環境に合わせた福祉サービスなどへの橋渡しをしており、助成は車両維持管理費や人件費に充てられた。 10万円

北九州市障害福祉ボランティア協会 障害者福祉を中心にしたボランティア推進組織で、ボランティアをする正会員と支援する企業・団体などの賛助会員で構成。会報の発行や啓発パンフの作成、講演会や研修会、出前講座、養成講座を開催するなどしてボランティア養成に努めている。 10万円

【毎日社会福祉顕彰】 106万8516円（12.1%）

毎日新聞社会事業団の創立60周年を記念して昭和46(1971)年に創設した東京、大阪、西部3事業団の共催事業。社会福祉の向上に貢献した個人や団体を顕彰するもので、今期の第53回毎日社会福祉顕彰には13件の推薦応募があった。

審査の結果、障害者や高齢者を対象に、外出支援のほか、健常者に障害者の目線を体験してもらう取り組みなどを行っている認定NPO法人横浜移動サービス協議会(服部一弘理事長＝横浜市中区)▽重い身体障害がある人らと健常の職員たちが協働し、公演は250回を超える認定NPO法人愛実の会 人形劇団紙風船(戸田真二理事長＝名古屋市港区)▽災害復興住宅でお茶会を開き、転居した高齢者の孤立防止やコミュニティーづくりに尽力した 阪神高齢者・障がい者支援ネットワーク(宇都幸子代表＝神戸市兵庫区)——の3団体に決まった。受賞団体には賞牌と賞金(各100万円)が贈られた。 106万8516円

【歳末事業】

歳末助け合い募金「愛の義援金」 12月1～28日を受付期間として募集。毎日新聞紙上で募金受付開始の社告を掲載したほか、過去の寄付者らに協力依頼状を送付するなどして募金を呼び掛けた。その結果総件数は676件、募金総額は927万3702円で、前年度に比べ件数は98件減▽金額は、約26万円減少した。種類別では、海外救援金と東日本大震災救援金を除き減少した。

<歳末募金>

社会福祉基金	400件	430万7930円
海外救援金	96件	183万3095円

小児がん征圧募金	71件	80万0936円
小計	567件	694万1961円
東日本大震災救援金	2件	30万7000円
毎日希望奨学金	107件	202万4741円
総計	676件	927万3702円

＜募金経費＞

給与・福利厚生費	19万0960円
通信費	33万6980円
印刷・製本費	6万5604円
合計	59万3544円

社会福祉基金から経費を引いた差額(430万7930－59万3544)371万4386円は一般福祉事業費に充てた。

歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」 全国の著名な画家や陶芸家などから寄贈された作品を一堂に集めて開く、師走恒例のチャリティー行事として多くの美術愛好家らに喜ばれている。新型コロナ対策をして12月第1～第3週の土・日曜日、山口、北九州(小倉)、福岡の順で開催した。

今期は洋画、日本画、陶芸、工芸、書家、高僧・宗教家、文化・芸能人などの約520人の方々から、約900点の寄贈を受けた。寄贈された作品に前年から引き継いだ作品も加えて3会場に配分。それぞれ1500～1600点の大規模な作品展になり、九州・山口はもとより中国、関西方面からも愛好家らが訪れた。また、24年3月2日には、年度末展を小倉で開き、歳末展で残った作品を、さらに求めやすい価格で即売した。

益金は、恵まれない子どもたちや障害者などを支援する福祉団体への運営助成金や障害児・者研修など各種福祉事業の助成金、ホームレス自立支援などに取り組む団体への助成金として活用したほか、24年度事業にも役立てる。

会場別売上高と経費は以下の通り。

＜会場別売上高＞

期 間 外 (23年4～11月)	35万7900円
山 口 展(山口井筒屋)	277万5859円
北 九 州 展(小倉井筒屋)	533万5113円
福 岡 展(福岡ファッションビル)	187万1201円
年 度 末 展(毎日西部会館)	302万4340円
	1336万4413円

＜即売展経費＞

書画材・額縁等	243万5645円
作品寄贈者謝礼等	15万1483円
会 場 費	284万8999円
労 務 費	156万0720円
通信・運搬費	158万6723円

印刷・製本費	20万4600円
旅費・交通費	28万6173円
事務費	7万7027円
雑費	34万1499円
	<hr/>
	949万2869円

差額(1336万4413円－949万2869円)の387万1544円は、社会福祉基金として一般福祉事業費に充てた。

収益事業（保険に関する事務の受託事業）

当事業団唯一の収益事業として位置付けている保険事務受託事業は、毎日新聞西部本社とその関連会社の九州センター社員を対象に、生命保険の事務作業を受託。令和5年度の収入は前年より約5%少ない69万375円だった。